

2022年6月13日（月）

紫波町農業活性化セミナー

令和4年第1回 水稻の直播栽培の歩みとこれからの取り組み講演資料

第1回 ワークショップ 「紫波町の10年先の農業 の姿」のアンケート結果 報告



東北地域農林水産・食品ハイテク研究会
農林水産省産学連携支援コーディネーター
門間 敏幸

ワークショップのテーマ

10年後の紫波町農業の提案

ワークショップ開催日時：令和4年1月12日（水）

開催場所：JAいわて中央紫波支所大ホール

参加者：紫波町農家、JA職員、紫波町役場職員、岩手県職員、周辺市町村の農家、東北ハイテク研メンバー

参加者総数：33名

実施方法：参加者を任意に4つのグループに分けてグループごとにワークショップを実施

ワークショップの風景



提案されたアイデア（１）

1. 担い手となる若者への支援を充実する
2. 自動車産業と連携してスマート農業などを推進
3. 水稻直播栽培の拡大
4. スマート農業による技術継承
5. 若者に農業を教えるための取り組みを強化する
6. 農機具、ビニールハウスのリサイクル利用
7. 女性目線を活かす
8. 若者中心の法人組織を作る
9. 通年働ける農業にする（ハウス、加工、販売など）
10. スマート農業の実現
11. スマート農業のための基地局を整備
12. もち姫の拡大
13. 農産物のブランド化を進める
14. もち小麦の拡大
15. 子実とうもろこしの導入
16. 操作がしやすい農機の開発
17. 商社や研究所と連携したブランド化
18. シルバー人材の活用
19. 組織化による雇用・経営の安定化
20. 少人数による大規模経営

21. 地域農業サポーター制度 （PayPayポイント利用等）
22. 生産性、収益性が高い品目への転換
23. 複合経営が必要
24. 観光開発で6次産業化を支援
25. シルバー銀行を短時間でも活用できるようにする
26. 有機たい肥による高品質米生産
27. 紫波町の農産物をもっとPRする
28. 非農家も農業に参加できるようにする
29. 観光果樹園のネットワーク構築
30. 月給制を導入して後継者づくりをする
31. 紫波町オリジナルブランドづくりの推進
32. リンゴの木のオーナー制度などによるサポーターの拡大
33. 町内産のソバや麦を使った特産品の開発
34. もち姫のような紫波町の代表品種を作る
35. 畦畔管理に事業予算を活用する
36. 明るく楽しい家族農業経営を目指す
37. 農業で暮らしていけるビジネスモデルを作る
38. 冬でも労働できる経営を作る
39. 儲かる農業経営の実現
40. 農業に興味がある人の面倒を見る仕組みを作る

提案されたアイデア（２）

41. 集落営農組織が後継者を育てる
42. 年間２３０日程度の実働日数の農業を目指す
43. 体験農場などで地域農業の継承を目指す
44. 大規模と専門的経営体の共存
45. 補助要件の緩和
46. たい肥利用で化学肥料を削減する
47. 規格外野菜の乾燥化などによる付加価値向上
48. 住民が参加できる参加型農業の推進
49. 家族経営を基本とした農業経営の実現
50. 小作料を撤廃する
51. 認定農業者への国の支援を増やす
52. 紫波町オリジナル米をつくる
53. 後継者がいない農家への新規就農者の紹介
54. 若い人へのアピールと学生アルバイトの積極的受け入れ
55. 安定した収入の実現
56. 補助金の増額
57. 担い手事務所を作る
58. 自然観光農園（ジビエ利用も）
59. 環境負荷の少ない農業が必要。 化学肥料の削減を関係機関は指導する
60. 多様な情報を開示する

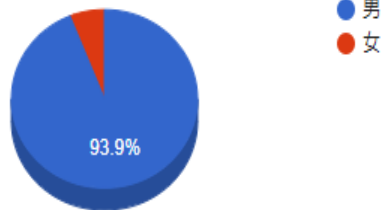
61. 農業を事業別にする（水稻、果樹、加工など）
62. ６次産業化を推進するための施設の整備
63. 高所得が実現できる農業経営の実現
64. 設備投資が可能な価格対策が必要
65. 荒廃山林を薬草園などに有効活用
66. 土地を守る考え方から稼ぎたい人への継承を図る
67. 山間部の放棄地は山にかえす
68. 農業は儲かるという価値観を広げる
69. 米生産の経費分を保証する米価にする
70. 平場、山間部での地域づくりで棲み分けができる農業を目指す
71. 町を農業生産工場化して、全農家が参加
72. 小作料の撤廃
73. 若者が魅力を感じる所得が得られる農業にする
74. 転作田への補助金増額による耕作放棄地の解消
75. 高齢化が働く人がいなくなっている問題への対応
76. 農業の分業化が必要
77. 耕作放棄地の解消

提案されたアイディア評価票の様式

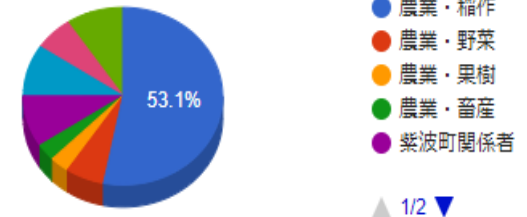
「10年後の紫波町の農業の姿」に関する提案の評価表（グループA-1）																			
評価者氏名（ ）					年齢（ 歳）			性別 ☐ 男性 ☐ 女性											
職業 ☐ 農業（ ☐ 水稻、 ☐ 野菜、 ☐ 果樹、 ☐ 畜産）																			
職業 ☐ 紫波町関係者、 ☐ JA職員、 ☐ 県関係者、 ☐ 東北ハイテク研、 ☐ その他																			
皆様から出された「10年後の紫波町の農業の姿」に関して、「実現の可能性」「若者が魅力を感じるか」「実現に対する関係機関への期待」から5段階で評価してください。 評価基準は、次の通りです。																			
提案された10年後の 紫波町農業の姿					実現の可能性			若者が魅力を感じるか			実現に対する 関係機関への期待								
					5:非常に大きい 4:やや大きい 3:どちらともいえない 2:実現の可能性は低い 1:実現できない			5:強く感じる 4:やや感じる 3:どちらともいえない 2:あまり感じない 1:全く感じない			5:強く期待できる 4:やや期待できる 3:どちらともいえない 2:あまり期待できない 1:全く期待できない								
1					5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
2					5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
3					5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
4					5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
5					5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

回答者の属性

区分	度数	%
男	31	93.9
女	2	6.1
合計	33	100

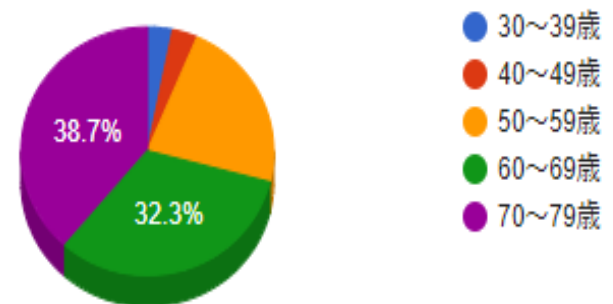


区分	度数	%
農業・稲作	17	51.5
農業・野菜	2	6.1
農業・果樹	1	3.0
農業・畜産	1	3.0
紫波町関係者	3	9.1
JA職員	3	9.1
東北ハイテク研	2	6.1
その他	3	9.1
無回答数	1	3.0
合計	33	100



区分	度数	%
30～39歳	1	3.0
40～49歳	1	3.0
50～59歳	7	21.2
60～69歳	10	30.3
70～79歳	12	36.4
無回答数	2	6.1
合計	33	100

年齢

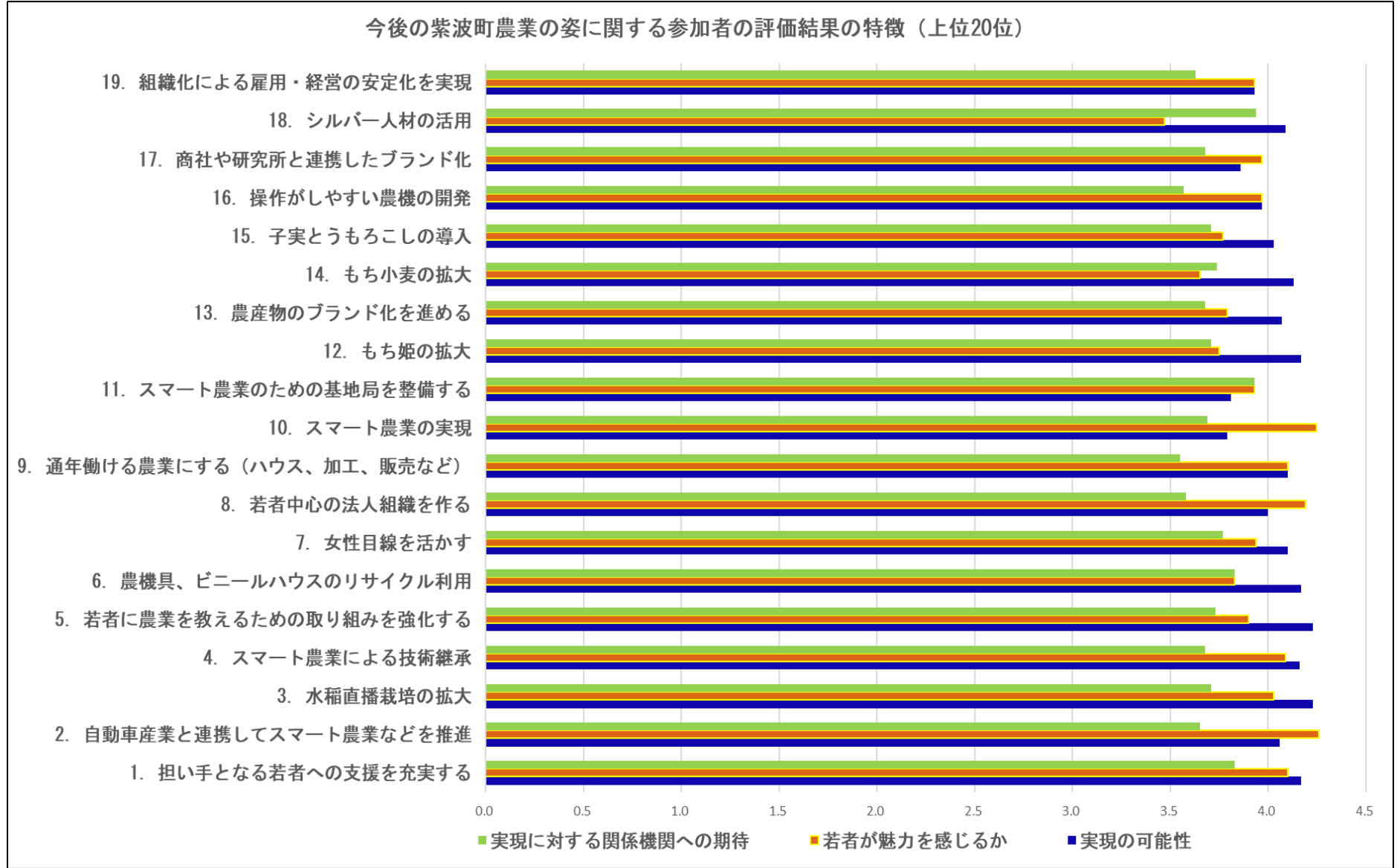


評価結果表 1（総合的に評価が高いアイデア）

今後の紫波町の農業の姿に関する参加者の評価結果の特徴
（総合評価 1 位～20 位）

質問項目	実現の可能性（順位）	若者が魅力を感じるか（順位）	実現に対する関係機関への期待（順位）	総合評価（順位）
1. 担い手となる若者への支援を充実する	3	4	3	1
2. 自動車産業と連携してスマート農業などを推進	12	1	16	2
3. 水稻直播栽培の拡大	1	8	8	2
4. スマート農業による技術継承	6	6	12	4
5. 若者に農業を教えるための取り組みを強化する	1	16	7	5
6. 農機具、ビニールハウスのリサイクル利用	3	23	3	6
7. 女性目線を活かす	8	11	5	6
8. 若者中心の法人組織を作る	17	3	25	8
9. 通年働ける農業にする（ハウス、加工、販売など）	8	4	32	8
10. スマート農業の実現	40	2	11	10
11. スマート農業のための基地局を整備	39	12	2	11
12. もち姫の拡大	3	33	8	12
13. 農産物のブランド化を進める	11	28	12	13
14. もち小麦の拡大	7	46	6	14
15. 子実とうもろこしの導入	15	32	8	14
16. 操作がしやすい農機の開発	20	9	27	14
17. 商社や研究所と連携したブランド化	32	9	12	14
18. シルバー人材の活用	10	63	1	18
19. 組織化による雇用・経営の安定化	24	12	19	18
20. 少人数による大規模経営	23	19	21	20

評価結果図 1（総合的に評価が高いアイデア）



評価結果表 2（総合的に評価が低いアイデア）

質問項目	実現の可能性(順位)	若者が魅力を感じるか(順位)	実現に対する関係機関への期待(順位)	総合評価(順位)
58. 自然観光農園（ジビエ利用も）	55	59	53	57
59. 環境負荷の少ない農業が必要。 化学肥料の削減を関係機関は指導する	46	65	57	59
60. 多様な情報を開示する	44	69	40	60
61. 農業を事業別にする（水稻、果樹、加工など）	45	57	73	61
62. 6次産業化を推進するための施設の整備	70	52	42	62
63. 高所得が実現できる農業経営の実現	72	15	72	62
64. 設備投資が可能な価格対策が必要	68	55	57	64
65. 荒廃山林を薬草園などに有効活用	63	67	49	65
66. 土地を守る考え方から稼ぎたい人への継承を図る	61	68	50	65
67. 山間部の放棄地は山にかえす	28	71	65	67
68. 農業は儲かるという価値観を広げる	70	52	71	68
69. 米生産の経費分を保証する米価にする	63	73	59	69
70. 平場、山間部での地域づくりで棲み分けができる農業を目指す	57	73	65	69
71. 町を農業生産工場化して、全農家が参加	74	61	75	71
72. 小作料の撤廃	75	66	68	72
73. 若者が魅力を感じる所得が得られる農業にする	72	70	74	73
74. 転作田への補助金増額による耕作放棄地の解消	69	75	69	74
75. 高齢化が働く人がいなくなっている問題への対応	62	76	75	75
76. 農業の分業化が必要	76	72	77	76
77. 耕作放棄地の解消	77	77	70	77

60～69歳と70歳以上の評価結果で有意差が認められた項目

＜実現可能性＞			
3	若者が魅力を感じる所得が得られる農業にする		
	60～69歳	3.67	*
	70～79歳	3	
5	大規模と専門的経営体の共存		
	60～69歳	4.2	* (Welchのt検定)
	70～79歳	3.5	
6	畦畔管理に事業予算を活用する		
	60～69歳	4.3	*
	70～79歳	3.83	
8	体験農場などで地域農業の継承を目指す		
	60～69歳	4	*
	70～79歳	3.5	
10	土地を守る考え方から稼ぎたい人への継承を図る		
	60～69歳	4	*
	70～79歳	3.45	
18	転作田への補助金増額による耕作放棄地の解消		
	60～69歳	2.88	*
	70～79歳	3.73	
20	米生産の経費分を保証する米価にする		
	60～69歳	3.44	*
	70～79歳	4.2	
26	山間部の放棄地は山にかえす		
	60～69歳	4.2	* *
	70～79歳	3.36	
47	農機具、ビニールハウスのリサイクル利用		
	60～69歳	4.4	*
	70～79歳	3.8	
48	少人数による大規模経営		
	60～69歳	4.5	* *
	70～79歳	3.58	
51	有機たい肥による高品質米生産		
	60～69歳	3.7	*
	70～79歳	4.27	

Studentのt検定による（適用できない場合は、Welchのt検定を用いた）

* * * 1%有意水準

* * 5%有意水準

* 10%有意水準

＜若者が農業に魅力を感じるか＞			
3	若者が魅力を感じる所得が得られる農業にする		
	60～69歳	3.88	* * （Welchのt検定）
	70～79歳	2.67	
5	大規模と専門的経営体の共存		
	60～69歳	4.1	* *
	70～79歳	3.33	
16	農産物のブランド化を進める		
	60～69歳	4	*
	70～79歳	3.22	
43	自然観光農園（ジビエ利用も）		
	60～69歳	3.75	*
	70～79歳	3.18	
47	農機具、ビニールハウスのリサイクル利用		
	60～69歳	4.2	* * *
	70～79歳	3.1	
47	農機具、ビニールハウスのリサイクル利用		
	60～69歳	4.2	* * *
	70～79歳	3.1	
65	集落営農組織が後継者を育てる		
	60～69歳	4.13	* *
	70～79歳	3.25	
71	通年働ける農業にする（ハウス、加工、販売など）		
	60～69歳	4.33	*
	70～79歳	3.7	
76	多様な情報を開示する		
	60～69歳	3.6	* （Welchのt検定）
	70～79歳	3	

＜実現に対する関係機関への期待＞

8	体験農場などで地域農業の継承を目指す		
	60～69歳	3.89	*
	70～79歳	3.17	
18	転作田への補助金増額による耕作放棄地の解消		
	60～69歳	2.57	* *
	70～79歳	3.64	
18	転作田への補助金増額による耕作放棄地の解消		
	60～69歳	2.57	* *
	70～79歳	3.64	

農業者（稲作）と関係機関職員の評価結果で有意差が認められた項目

<実現可能性>

1	耕作放棄地の解消		
	農業・稲作	3.06	**
	関係機関職員	2.18	**
4	スマート農業の実現		
	農業・稲作	3.35	***
	関係機関職員	4.36	***
24	操作がしやすい農機の開発		
	農業・稲作	3.5	***
	関係機関職員	4.45	***
35	もち姫の拡大		
	農業・稲作	3.92	**
	関係機関職員	4.5	**
36	紫波町の農産物をもっとPRする		
	農業・稲作	3.55	**
	関係機関職員	4.11	**
43	自然観光農園（ジビエ利用も）		
	農業・稲作	3.33	**
	関係機関職員	4	**
44	若者中心の法人組織を作る		
	農業・稲作	3.65	***
	関係機関職員	4.4	***
46	観光果樹園のネットワーク構築		
	農業・稲作	3.81	*
	関係機関職員	4.27	*
47	農機具、ビニールハウスのリサイクル利用		
	農業・稲作	3.88	***
	関係機関職員	4.55	***
49	スマート農業による技術継承		
	農業・稲作	4	**
	関係機関職員	4.55	**
51	有機たい肥による高品質米生産		
	農業・稲作	3.69	*
	関係機関職員	4.09	*
54	リンゴの木のオーナー制度による株主の拡大		
	農業・稲作	3.63	**
	関係機関職員	4.18	**
57	年間230日程度の実働日数の農業を目指す		
	農業・稲作	3.33	*
	関係機関職員	3.91	*
58	非農家も農業に参加できるようにする		
	農業・稲作	3.5	**
	関係機関職員	4.18	**
71	通年働ける農業にする（ハウス/加工/販売）		
	農業・稲作	3.93	*
	関係機関職員	4.3	*

Welchのt検定による

*** 1%有意水準

** 5%有意水準

* 10%有意水準

サンプル数（質問項目で若干差異がある）

農業・稲作－17人

関係機関職員－11人

<実現に対する関係機関への期待>

4	スマート農業の実現		
	農業・稲作	3.38	**
	関係機関職員	4.09	**
48	少人数による大規模経営		
	農業・稲作	3.88	*
	関係機関職員	3.36	*
70	町を農業生産工場化して、全農家が参加		
	農業・稲作	3.43	**
	関係機関職員	2.7	**

<若者が魅力を感じるか>

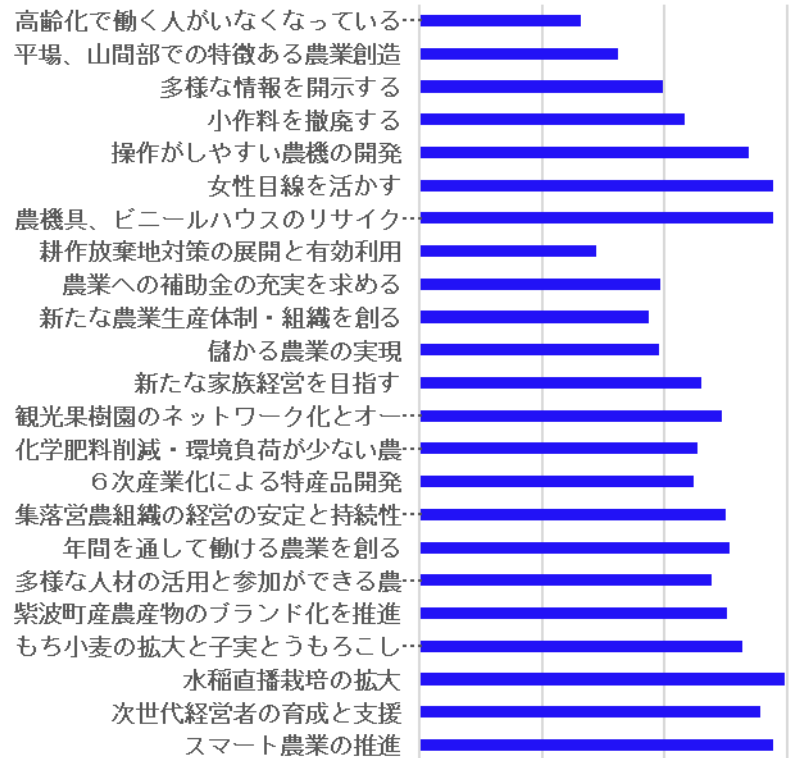
3	若者が魅力を感じる所得が得られる農業にする		
	農業・稲作	2.73	*
	関係機関職員	3.45	*
4	スマート農業の実現		
	農業・稲作	4	**
	関係機関職員	4.64	**
7	6次産業化を推進するための施設の整備		
	農業・稲作	3.24	*
	関係機関職員	3.82	*
8	体験農場などで地域農業の継承を目指す		
	農業・稲作	3.35	**
	関係機関職員	3.91	**
12	若い人へのPRと学生アルバイトの積極的受け入れ		
	農業・稲作	3.12	***
	関係機関職員	4	***
14	もち姫のような紫波町の代表品種を作る		
	農業・稲作	3.21	*
	関係機関職員	3.7	*
16	農産物のブランド化を進める		
	農業・稲作	3.36	***
	関係機関職員	4.27	***
19	高齢化が働く人がいなくなっている問題への対応		
	農業・稲作	3.31	**
	関係機関職員	2.4	**
24	操作がしやすい農機の開発		
	農業・稲作	3.5	***
	関係機関職員	4.55	***
26	山間部の放棄地は山にかえす		
	農業・稲作	3.35	**
	関係機関職員	2.6	**
33	紫波町オリジナルブランドづくりの推進		
	農業・稲作	3.47	***
	関係機関職員	4.18	***
34	紫波町オリジナル米をつくる		
	農業・稲作	3.42	*
	関係機関職員	4.1	*
35	もち姫の拡大		
	農業・稲作	3.42	***
	関係機関職員	4.3	***
42	住民が参加できる参加型農業の推進		
	農業・稲作	3.21	**
	関係機関職員	3.91	**
44	若者中心の法人組織を作る		
	農業・稲作	4	*
	関係機関職員	4.5	*
47	農機具、ビニールハウスのリサイクル利用		
	農業・稲作	3.56	*
	関係機関職員	4.18	*
51	有機たい肥による高品質米生産		
	農業・稲作	3.19	**
	関係機関職員	3.91	**
55	もち小麦の拡大		
	農業・稲作	3.33	**
	関係機関職員	3.91	**
57	年間230日程度の実働日数の農業を目指す		
	農業・稲作	3.4	*
	関係機関職員	4.09	*
71	通年働ける農業にする（ハウス、加工、販売）		
	農業・稲作	3.79	**
	関係機関職員	4.4	**
72	商社や研究所と連携したブランド化		
	農業・稲作	3.71	*
	関係機関職員	4.2	*

30～59歳と60歳以上の評価結果で有意差が認められた項目

＜実現可能性＞				＜若者が農業に魅力を感じるか＞			
47	スマート農業による技術継承			12	若い人へのアピールと学生アルバイトの積極的受け入れ		
	30～59歳	4.5	*		30～59歳	4.11	**
	60歳以上	4.05			60歳以上	3.23	
Welchのt検定による				16	農産物のブランド化を進める		
*** 1%有意水準					30～59歳	4.25	*
** 5%有意水準					60歳以上	3.61	
* 10%有意水準				18	高齢化で働く人がいなくなっている問題への対応		
サンプル数（質問項目で若干差異がある）					30～59歳	2.25	**
30～59歳－9人					60歳以上	3.18	
60歳以上－22人				19	米生産の経費分を保証する米価にする		
					30～59歳	2.25	**
					60歳以上	3.32	
				22	生産性、収益性が高い品目への転換		
					30～59歳	4.33	*
					60歳以上	3.72	
＜実現に対する関係機関への期待＞				45	農機具、ビニールハウスのリサイクル利用		
15	平場、山間部での地域づくりで棲み分けができる農業を目指す				30～59歳	4.38	**
	30～59歳	2.75	**		60歳以上	3.65	
	60歳以上	3.5		18	高齢化で働く人がいなくなっている問題への対応		
30～59歳	2.63	*	30～59歳		4.5	*	
60歳以上	3.29		60歳以上		3.95		
米生産の経費分を保証する米価にする				70	商社や研究所と連携したブランド化		
19	30～59歳	2.88	**		30～59歳	4.33	**
	60歳以上	3.58			60歳以上	3.79	
	担い手事務所を作る						
66	30～59歳	2.89	*				
	60歳以上	3.63					
	町を農業生産工場化して、全農家が参加						
68	30～59歳	2.44	**				
	60歳以上	3.32					

評価項目別の評価得点 1（上位20アイデア）

総合

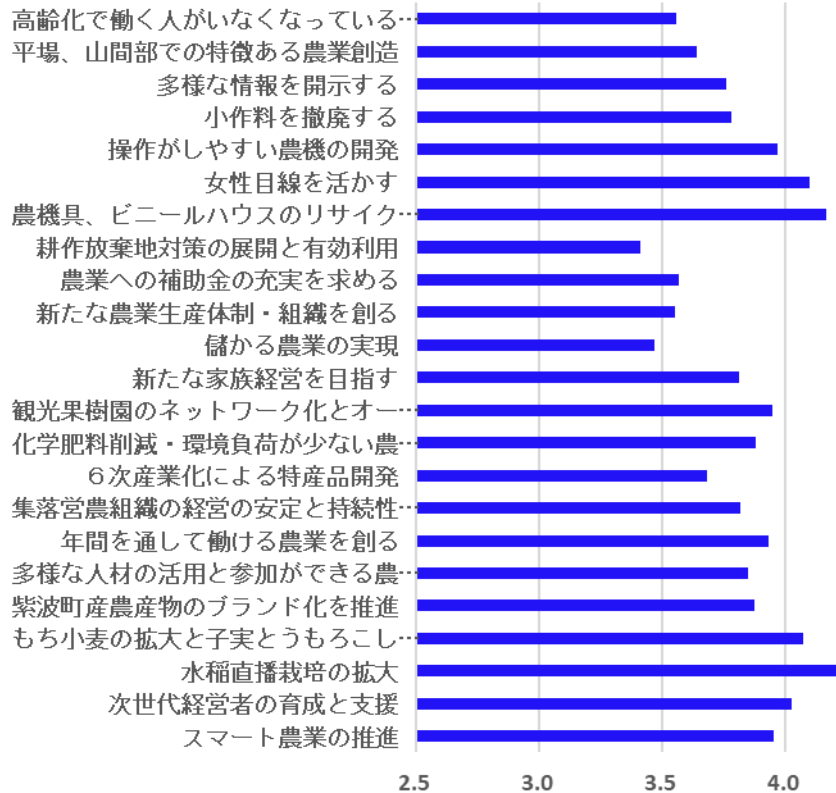


若者の支持

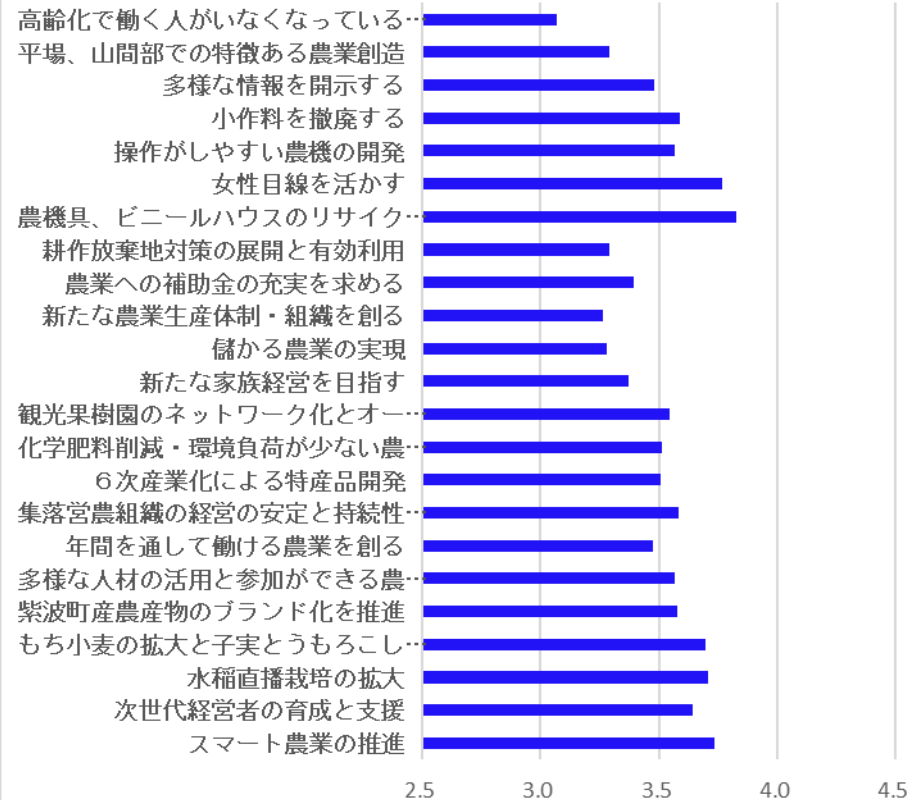


評価項目別の評価得点 2（上位20アイデア）

実現可能性

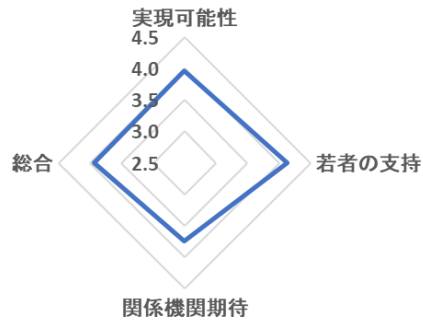


関係機関への期待

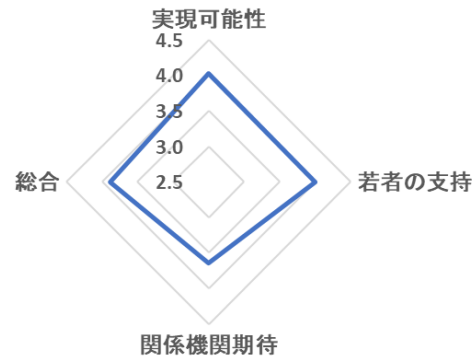


主要アイディアの評価特性 1

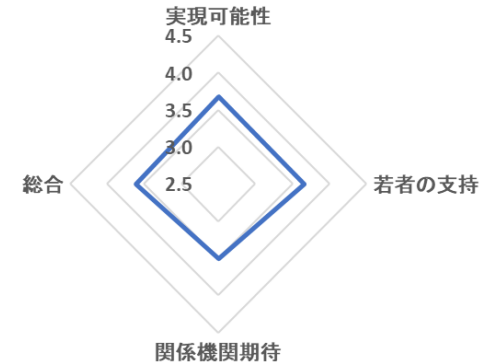
スマート農業の推進



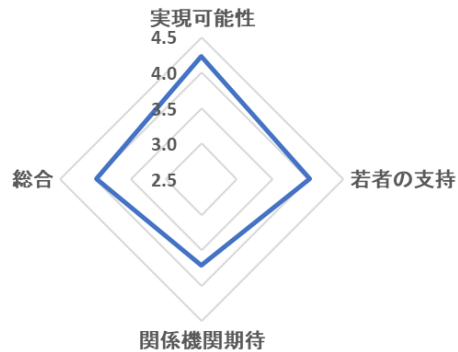
次世代経営者の育成と支援



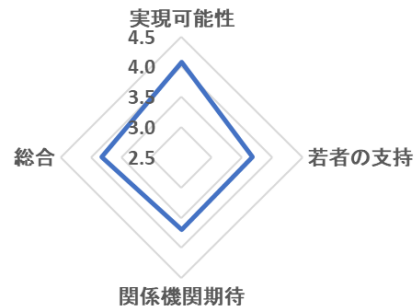
6次産業化による特産品開発



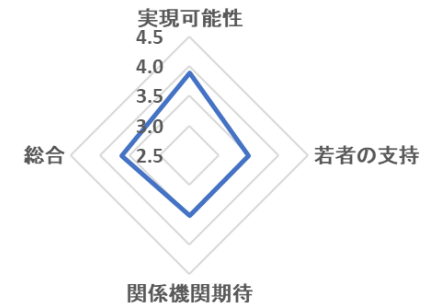
水稲直播栽培の拡大



もち小麦の拡大と子実とうもろこしの導入

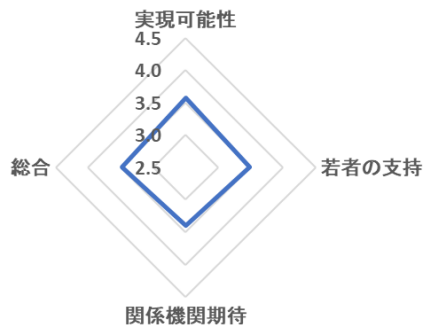


化学肥料削減・環境負荷が少ない農業づくり

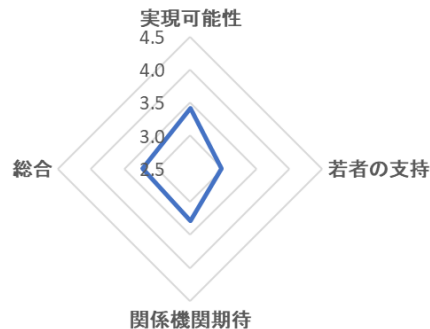


主要アイディアの評価特性 2

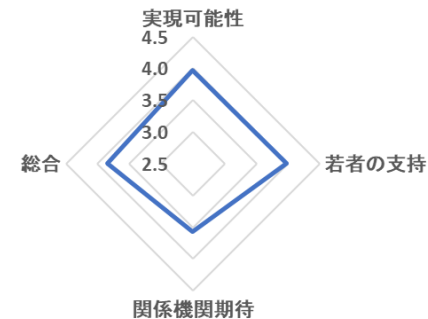
農業への補助金の充実を求める



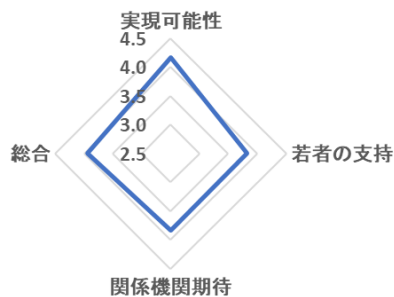
耕作放棄地対策の展開と有効利用



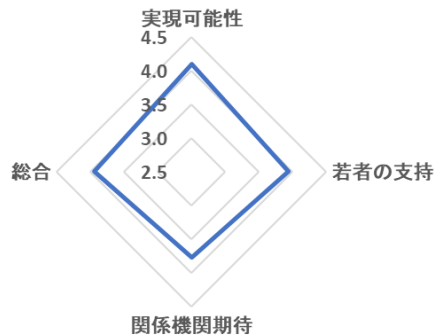
操作がしやすい農機の開発



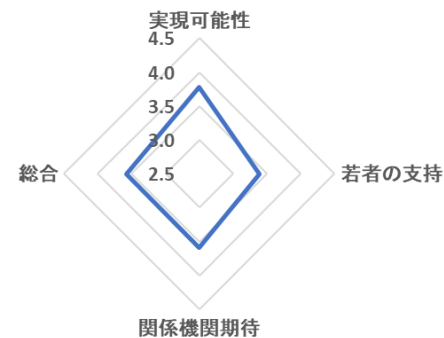
農機具、ビニールハウスのリサイクル
利用



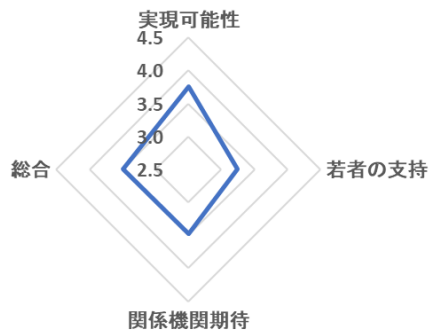
女性目線を活かす



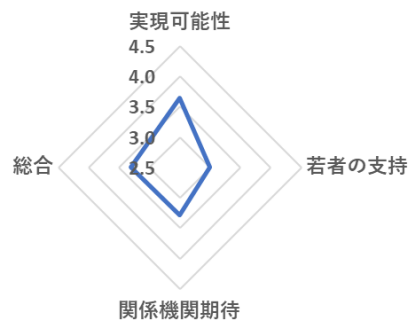
小作料を撤廃する



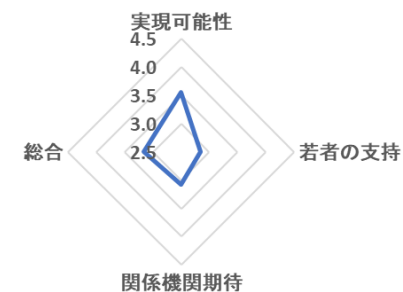
多様な情報を開示する



平場、山間部での特徴ある農業創造



高齢化で働く人がいなくなっている
問題への対応



まとめ

- 1) 1時間程度の短時間のワークショップでしたが、紫波町農業の活性化について、77項目のアイデアが提案されました。
- 2) **回答者の属性**には、次のような特徴がみられました。
①ほとんどが男性、②水稲中心の農家で60～69歳を中心に高齢者の参加が多い。
- 3) **総合評価が高い**のは、①若い担い手に対する支援強化、②スマート農業の推進、③水稲直播栽培の普及、④農機具、ビニールハウスのリサイクル利用、⑤女性の感性の活用、⑥もち麦、子実とうもろこしなどの個性ある農産物のブランド化、⑦組織農業、大規模農業の推進、等のアイデアである。
- 4) **多くのアイデアに対して60～69歳の評価が、70歳以上の評価より高く**、前向きにとらえていることがわかる。**70歳以上の評価結果が高い**のは、米価の保証、高品質な米生産と補助金による耕作放棄地の解消などのアイデアである。
- 5) 多くのアイデアに対して**関係機関職員の評価が、農業者の評価より高く**、前向きにとらえている。農業者の場合、相対的に評価が低く、関係機関職員との間の評価に乖離が見られ、アイデアの実現や効果について懐疑的であることがわかる。
- 6) **若者の支持や実現可能性に対する評価が高い**のは、スマート農業の推進、水稲直播栽培の拡大、操作がしやすい農機の開発、女性目線の活用などのアイデアである。**関係機関への期待が高い**のは、農機具・ビニールハウスのリサイクル、女性目線の活用、スマート農業の推進、水稲直播栽培の拡大、もち小麦や子実とうもろこし生産の拡大などのアイデアである。

ご清聴ありがとうございました。

絵に描いた餅にならないように、皆様から提案された
アイディアの実践を支援させていただきます。



紫波町

自然の恵みと、人の技が育てる
岩手・紫波町ならではの逸品たち。
あなたの「お気に入り」を
届けられたらうれしいです。



紫波町



Contents

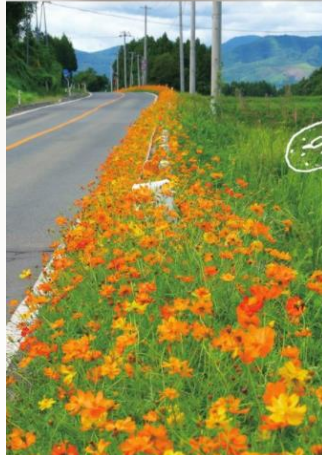
- おらほの日本酒 03
- おらほのワイン・ジュース 05
- おらほの肉・肉加工品 07
- おらほの農産品 09
- おらほのスイーツ 11
- おらほの工芸品 15
- 産直のまち 紫波 17
- ショッピングエリア 19



岩手県のほぼ中央に位置する紫波町は、
豊かな自然と歴史文化の薫るまち。
南北を流れる北上川流域には肥沃な平野が広がり
日本有数の生産量を誇るもち米をはじめ
さまざまな農作物を育みます。
東は北上高地、西は奥羽山脈へとつながる丘陵地では
りんごやぶどう、梨などの生産が盛ん。
「フルーツの里」とも呼ばれています。







宿場町として発展し、人やモノの交流が盛んだった
ことから、さまざまな伝統・文化が生まれました。
日本三大杜氏に数えられる酒づくりの職人集団
「南部杜氏」も、この地が発祥と言われています。
一方で、官民協働のまちづくりが先進モデルとして
全国から注目を集めるなど
「新しいものを積極的に取り入れ、進化する」一面も
紫波の魅力のひとつです。



恵まれた自然と、伝統文化
そして柔軟なアイデアと実践力が育む
さまざまな「紫波のとおき」を
多くの人に伝えたくて
パンフレットを作りました。

おらほの

まちの自慢の品々が
あなたの「お気に入り」のひとつになりますように。